



おっぱい  
みたいな  
俺のお尻を  
弄ばないで



六才からはじめて大学までレスリング一筋。

たいした成果をだせなかったものを、理不尽な恋愛禁止のルールを守って情熱を燃やしながらひたむきに競技人生を歩んできて悔いはなし。

なんて清々しい思いで大学卒業と共に引退をし、スポーツメーカーの企業に就職。

恋愛禁止から解放されて、遅ればせながらに青春を謳歌し、早く童貞卒業をしようと意気込んだのだが。

社会人になって半年くらい経ち、仕事や一人暮らしに慣れて、時間や

心に余裕がでてきたころ。

「そろそろ恋愛を求めている活動をしようかな」と思った矢先、風呂場の鏡に自分のうしろすがたを写して眩いた。

「・・・なんか、お尻がおつきくなってるね？」

小学校から大学までほぼ毎日こなしていた、地獄で延々と拷問をうけるようなトレーニングと食事制限をやめた影響で、たしかに体脂肪率はアップ。

なれど今でもジムで定期的に鍛えているし、仕事で走り回っているから人並み以上に体は引きしまって、体重も平均を下回っているはずが。

全体的には細マッチョながらに腰回りだけ、やけに肉つきがよく、女性的な曲線を描く輪郭、白く艶やかな肌、触ってみれば、指がどこま

でも沈んでいくように柔らかいっらない。

女性のようなお尻になったなんて男として認めたくないが、スーツのズボンに収めるのが大変だし、着られたとして今にもチャックが弾けとびそうに窮屈なのがまごうことなき現状。

そのうち、とうとうお尻がズボンにはいりなくなり、出勤するのを断念、そのまま退職することに。

「お尻がおおきくなっただけで」と呆れられるかもしれないものを、スーツ必須の仕事、しかも勤め先がスポーツメーカーとなれば死活問題。

爽やかな肉体美を誇る美男美女のスポーツ選手を広告塔にしている会社のイメージからして、従業員はスマートにスーツを着こなすのが基本。

お尻のサイズにあわせ、ぶかぶかのスーツを着て不格好なさまを晒すなんて言語道断、脂肪の塊をねじこんだところで、張りつめたズボン  
は否応なく目立ってしまい、男には笑いにされ、女子には「わたし  
よりおおきいじゃん」と忌避され、謳歌したい青春が台なしになっ  
てしまう。

まともにスーツが着れないなら転職も難しく、探しに探してやっと見  
つけたのが工場。

作業服のつなぎはスーツほどフィットしなく、体のラインが見えにく  
いから都合がいいし、職人への憧れがあつてのこと。

その工場はスポーツ用品を製造する老舗。

一般用のを大量生産しつつ、選ばれし職人さんはプロのオーダーを受  
けて専門的な仕事を。

レスリングをしてたころは、スポーツ用品にお世話になったからに、  
こんどは自分がスポーツ選手を支えるいぶし銀の職人になろうと考え  
たわけだ。

俺だけでなく、職人を目指す若いのが多くいて、おかげで前の会社を  
半年辞めての転職を疑われずに済み、スポーツメーカー勤務時代に何  
回か工場に顔をだし「そのときに職人の仕事を見て惚れたのだろう」  
とまわりに思われて好都合。

そうして問題なく工場勤務をはじめられたものを、下半身に爆弾を抱  
えているような身だから警戒を怠らず。

朝はなるべく早く出勤して更衣室に人がいない隙をついて着替え、退  
勤も同様、できるだけ遅く工場にとどまり、空き室になったところで  
すばやく私服に。

更衣室で人と会うのを避けると訝しく思われそうなところ、この工場は仕事熱心な従業員ばかりだから。

「春に入社したやつらに遅れをとっている分、追いつこうと励んでいるのだろう」「まだまだ下っ端だが、職人の仕事ぶりを見て学ぼうとするとは殊勝な」と好意的にとらえてくれ、詮索してこないのがあるがたかったもので。

まあ実際、転職組として焦っていることもあり「足手まといにならず、一人前に作業をこなせるようになりたい!」と朝早くから夜遅くまで仕事に没頭。

甲斐あつてか半年くらいで、一年目の新入社員たちと遜色ない技量を身につけられ、無人の更衣室を狙つての早着替えもお手のものに。



今日も今日とて「稲造さんの手さばには時間を忘れて見いつちやうなあー」とうつとりしながらの深夜。時近くの更衣室。

工場にのこっているのは俺一人だけ、鍵をわたされて戸締まりをまかされている。

着替え途中でだれかが更衣室にはいつてくる危険がなかったから、渋さが光る職人技をじっくり眺めさせてもらった余韻に浸り、のんびりしていたところ。

「だれすか、のこっているのー？」と扉が開かれた